

2022年度マイカー規制/シャトルバス運行の実施計画（案）

1 2022年度事業の方針（20211224第16回カムイワッカ部会にて承認）

（1）渋滞対策、混雑対策（交通規制なし）5月・7月

- ① 交通規制は行わず、知床五湖のアクセス改善を目的とした乗り換え促進事業を実施する。
- ② 来年度の暦と入り込み予測を踏まえて実施日を検討する。

（2）従来方式のマイカー規制の取り扱い（知床五湖～カムイワッカ間交通規制あり）8月

- ① 8月のお盆を中心とした期間は、従来方式によるマイカー規制を継続する。
- ② 以下の課題について、事業内容のあり方を検討する。
 - ・乗り換え拠点の再構築（ウトロ道の駅の活用、知床五湖地区の取り扱い）
 - ・運賃と運行スケジュール、座席管理
 - ・渋滞情報を含めた情報発信、周知広報

（3）新方式でのバスデイズの実施（国道334号交点～カムイワッカ間交通規制あり）9月～10月

- ① 試行事業の2年目として事業を継続する。ヒグマとの軋轢対策、環境保全、渋滞対策の観点に加え、野生動物観光や湯の滝の利用再開事業、誘客イベントと足並みを揃え、実施期間を検討する。
- ② シャトルバスの有償化を検討する。同時にゲート管理、運行管理コスト、効率的な決済システムの構築など運営体制の効率化を図る。
- ③ 事業予算として補助金の獲得を目指す。また、公的負担、利用者負担、民間負担のあり方についての検討も進める。

（4）公園内の2次交通のあり方検討上記期間以外

マイカー規制期間以外、公共交通が空白化しているカムイワッカ地区、岩尾別温泉地区へのアクセス手段について、近年の道路運送法の変化を踏まえた検討に着手する。（自家用有償旅客運送の可能性など）

（5）カムイワッカ湯の滝 試行事業

- ① 一の滝以奥の利用再開にむけた試行事業を継続する（2年目）。
- ② 試行事業の形態や期間は、今年度の事業成果を踏まえて検討する。バスデイズ等のアクセス事業と連携した事業展開を行う。
- ③ 2月実施予定のエコツアー検討会議までに、関係機関、ガイド等との協議を進める。

（6）カムイワッカ園地のあり方検討

近年の事業進捗を踏まえ、総合的なカムイワッカ地区のあり方についての検討を行う。同地へのアクセス、硫黄山や周辺地域における資源の掘り起こし、園地や園路等の利用環境、滞在環境の整備についての情報収集と意見収集を行う。

2 2022 年度事業の検討ポイント

(1) 渋滞対策、混雑対策の観点 参考資料 1

- ・ コロナ禍により依然として先行きが不透明な情勢であるが、過年度においては、GW や連休に混雑・渋滞が激化する傾向があり、これらを踏まえた対策が必要。
- ・ 交通規制を伴わない形でバスへの乗り換え促進のあり方、情報提供の検討が必要。

(2) 従来から継続してきたマイカー規制（従来方式）の取扱い

- ・ 8 月のお盆を中心とした期間は、従来方式(知床五湖からの車両規制)の継続が望ましい。
- ・ シャトルバスの運行方法、スケジュール、乗り換え拠点、情報提供、販売方法のあり方については、現行の課題を踏まえた改善の検討が必要。

(3) ホロベツ地区からのマイカー規制（新方式）の取扱い

- ・ ヒグマとの軋轢対策や自然環境保全、渋滞対策、湯の滝の再利用といった事業効果を踏まえ、実施期間を検討する。
- ・ メイン路線の有償化、料金設定方法、魅力向上の取組み内容、費用負担のあり方について検討が必要。

(4) 財源対策と実施体制

- ・ 昨年度に引き続き斜里町からの負担金に加え、環境省補助金、北海道補助金に応募予定。
- ・ 国や道の補助金に加え、シャトルバス有償化の実施等の条件により実施期間の検討が必要。

(5) 公園内の 2 次交通、カムイワッカ園地のあり方検討

- ・ 公園内のアクセス手段、自家用有償旅客運送の適用や新たな魅力的なモビリティなど、情報収集を行い交通サービスの向上が必要。
- ・ 近年のカムイワッカ地区等での事業進捗を踏まえ、総合的なカムイワッカ地区のあり方を検討していくことが必要。

3 2022 年度事業の実施計画（案）

- ・ 各期間において、それぞれ目的、内容の異なるマイカー規制/シャトルバス運行を行う。
- ・ コロナウイルス感染状況によっては、縮小、見直しがあり得る

(1) 規制を伴わないシャトルバスの運行

<趣 旨> 混雑が予想される 5 月連休、7 月連休の期間において、主に五湖地区の渋滞対策を目的とした代替輸送を実施する。

<期 間> **①5月1日(日)～5月5日(木・祝)【5日間】**
②7月16日(土)～7月18日(月・祝)【3日間】

<規制区間> 車両規制は行わない。

<運行方法> 既存の路線バス（知床線）に加え、知床自然センター～知床五湖間を往復するバスを増便し、およそ 30 分に 1 便程度の運行を行う。

<運 賃> 路線バスと同額とする。

- <検討事項> ①交通規制を伴わない形で路線バスを増便し、バスへの乗り換え促進のあり方を検討
②情報提供方法、乗り換えキャンペーンの検討

- <その他> ①5月はカムイワッカまでの道々が開通前のため、カムイワッカ行きの考慮の必要はない。情報提供と利便性、適正運賃に関するデータを取得する。
②7月はカムイワッカまでの道々が開通していることから、バス利用は知床五湖まで、カムイワッカまではマイカー利用となる情報提供が必要となる。

(2) 従来方式によるマイカー規制の実施

- <趣 旨> 混雑が予想される8月のお盆時期など、従来方式でのマイカー規制を継続し、渋滞対策、自然環境保全を目的としたシャトルバス運行を実施する。

<期 間> **8月6日(土)～15日(月)【10日間】**

<規制区間> 知床五湖ゲート～カムイワッカ (終日・道路交通法に基づき実施)

<代替交通> シャトルバス：ウトロ～自然センター～五湖～カムイワッカ
(一部斜里バスターミナルからの路線バスが接続)

<乗換場所> 従来の乗換場所：ウトロ温泉バスターミナル・知床自然センター

<運 賃> 有料 (ただし減免措置あり)

- <検討事項> ①運行方法、運賃体系と運行スケジュール、運行管理、チケット販売体制等の検討
②情報発信方法の検討

(3) 新方式によるマイカー規制の実施

- <趣 旨> 自然環境保全、野生動物との軋轢や危険事例の発生解消、交通渋滞の解消を図る。野生動物観光やカムイワッカ湯の滝試行事業と連携し、新たな魅力を創出する。

<期 間> **9月30日(金)～10月2日(日)【3日間】**

<規制区間> ホロベツゲート～カムイワッカ、岩尾別温泉道路 (道路交通法に基づき実施)

<代替交通> 複数系統のシャトルバス (ナショナルパークシャトル) を運行し、利便性の確保と輸送力を確保する。

A系統：道の駅ウトロ・シリエトク～知床自然センター～知床五湖

B系統：知床五湖～カムイワッカ

C系統：知床自然センター～岩尾別温泉

※1 A系統・B系統をメイン路線に運行。C系統は登山者、宿泊者に合わせて運行

※2 運行時間、運行間隔、便数、バス台数は後日調整検討

<乗換場所> 道の駅ウトロ・シリエトク、知床自然センター

- <検討事項> ①道路運送法第21条による乗合旅客運送許可による運行を検討する。 参考資料2
②A系統・B系統を有償化運行する。(C系統は無料) 資料1-2

- <その他> ・バスの運行とアクティビティ体験を合わせた誘客イベントを実施する。
・カムイワッカ湯の滝の試行事業と連携して事業を実施する。
・除外車両、許可車両の取り扱いはR2年度同様とする。

4 2023年度に向けた事業の展望（秋のマイカー規制/シャトルバス運行）

- ・中長期目標 [参考資料3](#) の達成に向け、2021年度の事業実施結果を踏まえ、2022年度、2023年度の事業を段階的に推進していく。
- ・2023年度は試行事業3年目となることから翌年度以降の実施可能性を踏まえた事業展望とする。

※重点取組内容

①シャトルバス運行「2022年度に有償化の検証」「2023年度に有償化での連休3日間での検証」

②道路運送法の改正による自家用有償旅客運送の適用など検討

＜中長期目標 達成目標と3年後のイメージ＞

実施済：

重点取組内容：

達成目標（3年後のイメージ）		アクションプラン			
		2021年度	2022年度	2023年度	
1	岩尾別地区-町道での野生動物観光の確立	9月から10月の車両規制を伴うシャトルバス運行期間の延長	10/1～10/3 3日間 前年と同期間実施	9/30～10/2 3日間 前年以前と同期間	9月連休実施 9/16～18 3日間
	岩尾別地区、岩尾別町道沿いでのヒグマ等野生動物観察の体制づくり	ネイチャーガイドバス実施 午前午後各6便 ふ化場ツアー実施	同左	同左	
2	カムイワッカの園地化とリブランディング	湯の滝試行事業と連携やトレッキング利用、風景探勝の多様な利用の展開	湯の滝試行事業を秋のシャトルバス運行と連携実施	同左 総合的なカムイワッカ園地のあり方検討	検討
	平均滞在時間の延長を図り、これに耐えるコンテンツの開発・試行	同上			
3	知床五湖の渋滞発生ゼロ	車両規制の有無にかかわらず、代替輸送の強化と五湖以外への分散化を図る	検討	検討	ホロボツ園地再整備
	8月に加え、5月連休、7月連休に対策を行い、渋滞発生日を軽減し、快適・スムーズな利用を実現	5月GW臨時路線バス運行 7月連休は案内実施	5月GW臨時路線バス運行 5/1～5/5 7月連休臨時路線バス運行 7/16～7/18	検討	

達成目標（3年後のイメージ）		アクションプラン			
		2021年度	2022年度	2023年度	
4	制度の最適化	ウトロ～カムイワツカ間の一气通貫でのわかりやすい利用モデルの確立	検討	同左	同左
		運行方式（新方式、従来方式）や規制区間、利用制度との統合化、一本化の推進	8月・10月異なる方式で実施	同左	同左
	制度の最適化	登山者、ホテル等の利用を踏まえた岩尾別地区の最適化と利便確保	岩尾別線3便増便	アクセス手段、自家用有償旅客運送、魅力的なモビリティなど検討	検討
		有償化の実施。スマートな決済サービスの導入	8月有償運行 10月無償運行 ※有償化に向けた検討実施	8月有償運行 10月有償運行	同左
		旅行業取得と商品化、システム開発、MaaS化に着手	検討	有償化を踏まえたシステム開発検討	同左
	5	自立運営体制の確立	収支バランスの均衡	全体事業を調整し収支バランスを図る	同左
事業主体としての運営事務局の確立			検討	同左	同左